

市長が新規採用職員に対して行った講話内容です。

みなさんは今、どんな気持ちで仕事をしていますか。仕事がおもしろくなりそうという人がいれば、やめたいと思うことがある人もいると思います。実際に働いてみると、残業が多いと感じたり、休みが上手く取れなかったりするという声を聞きます。

仕事の量が多い理由は市役所がなんでもやってしまうからです。それを解決するために、できる人(市民)に仕事をお願いして時間を作ってください。そして、空いた時間でぜひまちに出てください。みなさんの職場は長久手市域全体です。市役所の中でパソコンを使った仕事ばかりをするのではなく、まちに出て、あいさつをし、知らない人にも声をかけて地域の中で課題を見つけてください。

まちに出る際にはあいさつベストを着るなど、自分からも知らない人からもあいさつがしやすい工夫をしてください。あいさつベストでなくても、職員だとわかるように他の目印になるものでも構いません。知らない人とあいさつをして、交流をすることでまちの課題が見え、解決する糸口が見つかります。

人と人との関係はわずらわしいことだと思います。しかし、この関係がなくなると、近所付き合いがなくなり孤立死や虐待を見落としてしまう、知らない人が地域でうろうろしていても気に掛けることがなく犯罪が起きてしまうなど、地域でさまざまな問題が起きてしまいます。

20歳から60歳まで働く時間と、60歳から80歳まで過ごす自分の時間は同じ約10万時間だそうです。前半の10万時間を地域に出ずに仕事ばかりしていた人は、後半の10万時間はどう過ごしていいかわからないと言います。みなさんは、そうならないよう今のうちから地域に関わりを持ち、60歳になった時に過ごす理想のまちを地域の人たちと一緒につくって行ってください。それを目標にしてみなさんには市役所の仕事を楽しんでもらいたいと思います。

～市長の話を聞いて～

私はよく市内に買い物などで出かけますが、その途中のまちを見ながら「この公園は親子連れがたくさん来るんだな」「この道は歩道がないけど、よく小学生が通るんだな」「このカフェは若い人だけじゃなく、ご年配の人にも来るんだな」など普段市役所の中には気づかないことがあります。私たちはついつい市役所の中での仕事に追われがちですが、常にリアルタイムの情報があるのはまちの中なのだということを忘れず、時間をつくってまちに出られるよう心掛けたいと思います。